

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790100903		
法人名	医療法人社団 敬愛会		
事業所名	グループホーム敬愛アネックス 2階		
所在地	福島県福島市太平寺児子塚36番地		
自己評価作成日	R5年1月12日	評価結果市町村受理日	令和5年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和5年3月17日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム1階に内科、歯科があり、医療面で充実されている。通院など家族負担も少なく、体調不良時なども往診、看護師訪問等対応でき、利用者様、家族様からも安心されている。研修参加が難しい状況で、同法人内ZOOM研修や、会議で情報共有、毎月担当職員が決められ研修を実施し、資質の向上に努めている。新型コロナウイルス感染拡大の中、委員会を中心に対策や、基本的感染対策の徹底、防護服の着脱等のシミュレーションを実施している。感染の恐れや、濃厚接触時にも関連病院でスムーズにPCR検査を実施して、利用者様が感染することなく経過している。感染に気を付けながら面会や、家族支援も出来る限り柔軟に対応していきたい。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 運営推進会議委員として、地域代表や行政等の他に家族全員に入居時に協力を得ている。現在コロナ禍により書面開催をし、開催の都度、全家族へ報告書とアンケートを郵送している。家族からは事業所の取り組み状況について率直な意見・要望があり、出された意見・要望と回答は次回の報告書の中に記載しており、相互理解の場となっている。  
2. 入居前の聞き取りの他、入居後1週間程度の生活状況を職員全体で観察し会議で協議し現状に即した介護計画を作成している。毎月カンファレンスを行い、居室担当者がモニタリングをし、利用者・家族の意見を聞き職員会議で協議する等、チームで介護計画を作成する取り組みをしている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に復唱し、意識付けに結びつけ理念に沿ったサービスを実施を心掛けている。	理念は、職員間で話し合い地域密着型サービスの意義をふまえたものを作成している。毎朝の申し送り時に唱和する他、フロアと通路に掲示し、常に確認しながら共有して実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの為、交流の機会が減っている。地域行事の参加や、ボランティアの受け入れもできていない。	併設している同法人の医院が代表して町内会に加入している。敷地内に枝垂桜などの花が開花すると地域の方が花見に訪れ、コロナ禍前には、通院の帰りに事業所見学に訪れる方もいた。地域の方とは、災害時の協力について了解を得るなどのつきあいがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方には活かす機会がない。利用者家族様に認知症利用者の支援方法や、疑問に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回運営推進会議を開催し、課題を決めてそれについて話し合い、意見等を参考にしながらサービスの向上につながるよう努めている。新型コロナウイルスの為現在は施設職員のための会議としている。	コロナ禍のため、定期的に書面開催をしている。全家族に運営推進会議委員として協力を得ている。書面開催報告を委員へアンケートを添えて郵送し、いただいた意見は職員間で協議しサービスに活かしている。また、対応状況については次回推進会議で報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険や、運営について福島市役所、高齢福祉課に相談し助言を受け運営している。コロナ関連などメールでのやりとりをしている。	市からメールで、コロナ対応や研修会等の情報提供がある。管理者は、書類の届け出や介護保険の疑問点等について担当課へ積極的に出向き関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3カ月に一度開催し、身体拘束の可能性がないか話し合い、そのような事がないように職員へ周知してもらっている。その他に年に3回身体拘束虐待防止について研修を実施している。	指針に基づいて定期的に委員会を開いている。研修は年3回実施し、自己点検シートで振り返りを行っている。また無断外出の可能性の高い利用者については、家族と話し合い身体拘束をしないケアについて説明し、相互理解に努めている。玄関は日中のみ開錠している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束虐待防止について研修を年に3回実施し、職員の意識が高まるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者はいないが、管理者は日常生活自立支援事業、成年後見制度について理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に重要事項説明書、契約書の説明を行っている。不安や疑問点があれば、その都度説明をしている。改定等があった場合は家族様に連絡することになっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からの意見は都度傾聴し、出来る限り反映できるようにしている。家族様の意見、要望は運営会議等で都度お聞きし、それ以外も玄関に設置しているアンケート箱内容を運営推進会議で返答、反映できるようにしている。	利用者からは日々のふれあいの中で、思いや希望を聴くよう努めている。家族全員が運営推進会議委員として協力を得ている為、会議の報告と共にアンケートを同封している。また、電話やLINE等でも意見をいただいております。いただいた意見は職員会議で協議し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見等は会議の他にも、施設長、管理者に聞ける環境になっている。提案の内容によって反映させている。	管理者は、朝の申し送りや職員会議等で職員に意見・要望を出してもらい、業務に反映させている。また、管理者は日々の職員の様子を見ながら、困っていることはないのか等こまめに声掛けをし、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各職員の評価制度や、処遇改善等を積極的に取り組まれて、働きやすい環境になるよう努めている。家庭環境や、希望に配慮し、柔軟な勤務体制で働けるように調整できている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスの感染状況をみながら外部研修の参加やZOOMでの参加をしている。施設内研修は毎月開催しスキルアップできるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの感染状況に応じて機会は少ないが、同法人の研修に少人数で参加し、サービスの質の向上に努めている。毎月ZOOMで同法人の会議ありサービスの向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時、入居してからも本人の意思や訴えを聞いている。意思表示の困難な場合は日々の生活の中で表情や行動などからも利用者の思いや意向の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査時に現在の困っている事や、入居に当たっての不安など、初期段階に詳細に説明し、信頼関係を築けるように努力している。入所後は詳細に現在の状況を説明するよう心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護側の支援に偏らないよう、ご本人、ご家族の意向を大切に必要とされるサービスを提供していくように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の中で利用者様が役割を持って生活できるよう、限られた利用者様ではあるが、食器拭きや、洗濯物畳み、縫物等の共同生活を営む上で助け合いの関係性が構築できるようお願いをして実施して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染状況によるが玄関先で感染予防(アクリル板越し)をし、会える機会を設けている。日頃の状況や意向などを来所持や、電話時に話すようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの為、外出、来所できていない状況であるが、携帯電話で馴染みの方とお話できるように利用方法支援や、手紙の郵送や、郵便物や贈り物が届いたり関係が続かれています方もいらっしゃる。	コロナ禍で、馴染みの場所への外出や知人の面会は自粛している為、電話や手紙、ビデオ電話、法人のLINEを利用し、関係が途切れないように支援している。また、携帯電話を持っている利用者の通話支援を行い、手紙等のやりとりやお互いに贈り物をする関係を続けている利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者が関わりがある場合もあるが、職員が間に入り共に暮らす家族の様な関係に慣れるよう支援している。孤立しないように食事やレクリエーション時はフロアへ来られコミュニケーションを図られている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、関連施設等の紹介や、相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3ヶ月程度にご本人の意向を確認、意思の訴えることが出来ない利用者様は日常生活で個々のわかったことを会議などで話し、本人のQOLが向上するよう心掛けている。	日々のふれあいの中で、思いや希望、困っていることなどを把握するように努めている。また、ケアプランの見直しの時に本人と家族から意向を聞いている。意思表示が困難な方は家族の意見をもとに、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期面談時に、本人、家族から情報収集をしてアセスメントシートに記載している。日頃からの会話で生活歴や馴染みの暮らしを聞き取り、サービスに反映できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活活動記録シートや申し送り帳などから、個別の心身の状態を把握し、アセスメント、カンファレンスを開催し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の詳細な経過記録が出来るよう心がけ、介護方法等変更あったときは申し送りを活用し、周知できるようにしている。サービス担当者会議では本人、家族の意向や、職員の意見なども話し合い介護計画に反映させている。	入居前の聞き取りと入居後1週間程度の会議で協議し、介護計画を作成している。毎月カンファレンスを行い、居室担当者がモニタリングし、利用者・家族の意見を聞きながら、3か月ごとに見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の詳細な経過記録が出来るよう心がけ、ミーティングで話し合い介護計画に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院や買い物代行等必要な支援は柔軟に対応できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流や、市役所などの機関と連携を図れるよう努め、本人の暮らしを支えられるよう取り組んでいる。新型コロナウイルス感染予防の為外部との交流は出来ていない。近所のドラッグストアで買い物をするのを楽しんでいたが、買い物代行している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	建物内に併設される医院を、かかりつけ医とされている利用者様が殆どである。当法人以外の受診も可能であるが、その場合は家族様の対応となっている。契約時に説明、同意を得ている。	契約時に受診医療機関の希望を確認し、利用者の殆どが、月1回往診を行っている併設医院を選ばれている。他医療機関の受診は家族付き添いを基本としており、その際は書面で情報提供し適切な医療が受けられるよう支援している。受診結果は家族と事業所で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隔週、当法人の訪問看護ステーション利用し、健康管理、医療的ケアの連携を図っている。ホーム1階が診療所なので異変時は1階の看護職と連携を取り、受診時間内であればすぐに受診できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	新型コロナウイルスの影響により面会できないが、病院担当者の方と電話で情報交換を行っている。早期に退院出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化や終末期に向けた事業所の指針を説明している。、書面にて。家族の意向を確認し、書面にて同意を得ている。重度化、終末期には意思を交えホームの指針を説明し、同意を得て支援している。	契約時に事業所から「看取りに関する指針」を説明し同意を得ながら、終末期の看取りに関する意向確認も書面で行っている。重度化・終末期の対応について、医師・家族・事業所が方針を共有し、状態変化の都度、家族の意向を書面で確認して看取り介護計画を作成し看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に避難訓練や通報訓練を実施している。AEDの講習会、急変時の対応、連絡先を確認し緊急時に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者(きくち医院)を中心とし対応をし、火災訓練を定期的実施している。災害時の食糧水の備蓄や懐中電灯、発電機、暖房器具など用意し備えている。緊急時の地域住民への協力をお願いしている。緊急時はLINEを活用し職員へ一斉連絡できるようになっている。	年2回、火災(夜間)を想定した避難訓練を実施している。また、外部評価結果を踏まえ、消防署の指導のもとに地震想定避難訓練を行っている。近隣の方の協力も依頼し承諾をいただいている。職員への緊急連絡網はLINEで一斉連絡できるようにしている。非常時用備蓄品も準備されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にある敬う心を忘れずにケアするように、利用者様一人ひとりの性格や、生活歴を把握し、尊厳が損なわれないように、対応している。	人生の先輩として敬うことを念頭におき、利用者一人一人の意向や尊厳を大切に支援し、自己点検シートで、ケアなどの振り返り確認をしている。トイレ誘導や入浴の際は誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。書類等は鍵付き書庫で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを聞き入れ、職員の押し付けではなく、利用者本位の自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先しすぎず、レクリエーションも無理には参加しなくてもいいようにしている。本人のやりたいこと、趣味を行えるよう、希望に沿って支援できるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容が来所し、希望される利用者様は散髪されている。美容室に外出し散髪されている方もいたが、現在は新型コロナウイルスの影響でできていない。衣類は本人に確認し、気候に合った衣類を着ていただけるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	新型コロナウイルスの為、職員と利用者同席で食事していたが、距離を取りながらも同じ食事を同じ空間で摂取している。毎食の献立の発表や、行事で、おやつ作りの機会を作り、利用者様に作業して頂き、楽しんで食事ができるように支援している。	同法人管理栄養士が作成した献立を参考に、利用者の好みに合わせて変更し、食事を提供している。調理担当者はシフト調整しながら食事作りに専念できるようにしている。また、利用者の出来ることを活かしながら、おやつや季節の行事食作りに手伝っていただき、楽しい食事となるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事・水分量を記録し、利用者様の状況を把握し、一人ひとりに合った形態や、苦手な食べ物にも配慮して提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士からのアドバイスを基に個々の状態に合わせ、本人の力に応じた口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の排泄誘導を実施し、トイレでの排泄していただいている。失禁に対しては、本人の自尊心が傷つかないよう配慮しながらケアを実施している。	尿意を訴えることが難しい利用者には、定時誘導によりトイレで排泄できるよう支援している。また、会議の中で利用者の排泄状況や習慣について確認し、羞恥心や自尊心を損ねない声かけ誘導により自立にむけた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や体を使ったレクで運動するように心がけている。下剤については医師と連携し調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には曜日が決まっているが、本人の状態や希望を確認しながら、入浴剤を使用したり入浴を楽しむことができる支援をしている。	入浴は、週2回以上を目安にしている。個浴(午前)と機械浴(午後)があり、身体や介護状況に応じた入浴支援を行い、昔話や利用者の思いを聞ける大切な時間ととらえながら支援している。また、同性介助で対応している。入浴剤で温泉気分を味わってもらうなども行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活習慣を優先し、本人の意思で居室で休んでいただいている。夜間は照明の光度や室温調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の説明書を綴じ、職員は薬の内容を把握するように努めている。薬の変更や臨時薬が処方された時は連絡ノートに記載し情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や好きな事等を考慮し、個別に行っていたりできるよう努めている。食事後の食器拭きや、縫物などできることはお願いし、張り合いのある生活をしている。レク委員会が年間行事を企画して毎月行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの為、外出は控えている。感染状況に応じて、必要性がある場合のみ外出している。	コロナ禍で、外出を自粛している。広いバルコニーがあり吾妻連峰や街並みが見渡せ、行事や天気の良い日は外気に触れ気分転換をしている。家族対応の通院時は家族と食事をしてくる利用者もいる。駐車場の枝垂桜を見て気分転換をしているが、利用者のその日の気分や希望に応じた外出支援は行われていない。	コロナ禍で外出を自粛しているが、利用者の希望や季節に応じ、利用者負担の無い距離でドライブをする等、気分転換を図る外出の機会を作ることが望まれる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで管理しているが、本人の希望でお金を所持している利用者様もいる。新型コロナウイルスの為外出できないが欲しい物、必要な物があった場合は職員が買い物代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があれば、都度電話対応している。携帯電話所持している方は操作支援、知人友人へ手紙を出す場合は職員で対応している。その他毎月家族へ、本人の様子を職員から手紙でお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その日の状況に合わせて調節している。装飾も季節を感じていただけるよう季節に合わせた飾り付けを行っている。	旧病棟を活用したグループホームで、リビングには食事兼用テーブルとソファが置かれている。また、共用スペースにソファが置かれ、その日の気分で居場所が選べる造りとなっている。壁面に季節に応じた共同作品を飾り、空気清浄機を設置し、居心地よく過ごせるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアや談話スペースにソファを置きくつろげる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入居者が自宅で使用されていたのある物品や家具を使用している。	旧病棟を活用した造りで、居室はトイレ付の居室と2室兼用トイレ付の居室がある。居室にはベッド・補助テーブル・エアコンが設置されている。入居の際に、使いやすいようにベッドや家具の向きを決めいただき、テレビや衣装ケース、タンスなどを持参し、家族写真等を飾るなど、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内に個別トイレ、ポータブルトイレを設置しており、自立排泄が出来るようにしている。立ちあがり困難方などはベッドに介助バーを設置したり、移動スペースは障害物を置かないようにしたり、安全な生活空間となるよう配慮している。		